

文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム事業

2020 年度微細加工プラットフォームコンソーシアムシンポジウム

『共用施設から生まれるイノベーション』

～ ナノテックが拓く未来 ～

2021 年 3 月 1 日 (月) 13:00～15:20

オンライン開催 (Zoom Webinar 利用)

文部科学省の委託事業である微細加工プラットフォームは、大学等の施設の共用と蓄積された知によって研究者の R&D の推進と課題解決支援を目的として、2012 年度のスタートから来る 3 月には 9 年を経過、多くの大学や企業の研究者、技術者の方々にご活用頂いてきました。本シンポジウムでは、ナノテクノロジー研究支援、共用事業の戦略、取り組み、最先端のナノテクノロジーの研究開発動向、プラットフォームを活用し創出された技術開発の成功事例、等についてご紹介します。貴研究開発機関の R&D 戦略、課題解決のご参考になれば幸いです。



参加費：無料

参加申込：下記 URL もしくは右の QR コードより事前登録をお願いします。

<https://www.nanofabsymposium.org/>



Time	PROGRAM SCHEDULE
13:00	主催者から 微細加工プラットフォーム代表機関 運営責任者 小寺 秀俊
13:05	挨拶 文部科学省 研究振興局 参事官 黒澤 弘義
13:10	基調講演 「ナノテックプラットフォームは『マテリアル先端リサーチインフラ』へ」 文部科学省 ナノテックプラットフォーム プログラムオフィサー 永野 智己 <概要> 政府は「マテリアル戦略」を本年 3 月に策定予定であり、これに先立ち文科省と経産省は合同で「マテリアル革新力強化のための政府戦略に向けて（戦略準備会合とりまとめ）」を公表した。そこで提起された“マテリアル DX プラットフォーム構想”実現の一翼を担う新事業、文科省マテリアル先端リサーチインフラが始まる。ナノテックプラットフォームの優良な基盤を活かしつつ DX を遂げようとする新事業を前に、期待と展望を述べる。
13:45	特別講演 「微細加工プロセスの時代が来た」 東北大学 大学院工学研究科 教授 田中 秀治 <概要> 設計したデバイスは外で作ってもらえばよい。設計にこそ価値がある。こう信じてきた半導体業界は足元をすくわれた。いや、ずいぶん前から足元がグラついていたのに目をつぶってきたのだ。MEMS のファブレス企業も同じだ。ただ、彼らは足元が危ういのに気づきはじめている。計算機上の仕事は時流に乗っていて、効率がよさそうに見える。しかし、ものづくりを捨てたらそんなに長く好調は続かない。微細加工プラットフォームの皆さんの出番なのである。
14:15	利用事例の紹介 1 「光触媒機能・超親水機能を備えた反射防止誘電体多層膜」(東京大学支援) コニカミノルタ株式会社 先端生産技術開発部 アシスタントマネージャー 多田 一成 利用事例の紹介 2 「マグネシウムシリサイドを用いた環境調和型赤外フォトダイオード」(物質・材料研究機構支援) 茨城大学 大学院理工学研究科 教授 鵜殿 治彦 利用事例の紹介 3 (企業からの発表：調整中)
15:15	閉会/主催者挨拶

お問い合わせはこちらへ

2020 年度微細加工プラットフォームコンソーシアムシンポジウム事務局

nanofabpf_2021@semiconportal.com Tel: 03-6807-3970